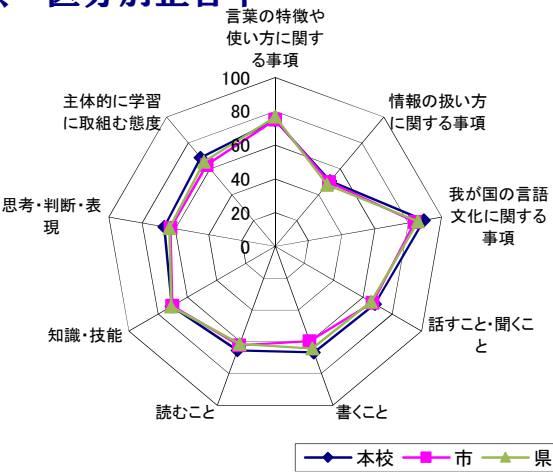


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	50.6	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	89.3	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	68.2	66.5	65.5
	書くこと	66.7	59.6	64.2
	読むこと	65.5	62.2	61.5
観点	知識・技能	70.7	70.2	71.1
	思考・判断・表現	66.7	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	68.6	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●本領域の平均正答率は74.8%で、県の正答率を1.9ポイント下回った。 ○「主語と述語の関係について理解している」の平均正答率は82.1%で、県の正答率を7.8ポイント上回った。 ●「3年生の漢字の読み書き」については、県の正答率とほぼ同じか、最大で10.3ポイント下回るものもあった。	・3年生で学習した漢字について、朝の学習や宿題等で復習を行い、定着を図る。 ・新出漢字については、音読や漢字練習で習熟を図るとともに、ミニテストの実施を通して定着を確認できるようにする。また、他の教科でも文章を書く際には、習った漢字を積極的に使えるように指導する。
情報の扱い方に関する事項	○昨年度課題のあった本領域の平均正答率は50.6%で、県の正答率を2.8ポイント上回った。 ○「情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉えている」の正答率は、43.8%で県の正答率を6.9ポイント上回った。 ●「国語辞典の使い方を理解している」の平均正答率は50.0%で、県の正答率を1.2ポイント下回った。	・授業や朝の学習のときに、国語辞典を使って初めて出会った言葉、熟語、慣用句等の意味を進んで調べられるように、継続して指導していく。 ・段落相互の関係に着目しながら、大事な言葉や文を見つけて、線を引いたり抜き出したりすることで、話し手や書き手の伝えたいことが捉えられるように、指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○本領域の平均正答率は89.3%で、県の正答率を3.4ポイント上回った。	・漢字ドリルで新出漢字を学習する際、部首に着目させて同じ部首やつくりの漢字を集められるように指導する。
話すこと・聞くこと	○本領域の平均正答率は68.2%で、県の正答率を2.7ポイント上回った。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」の平均正答率は84.8%で、県の正答率を4.8ポイント上回った。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」の平均正答率は64.3%で、県の正答率を5.6ポイント下回った。	・朝のスピーチなどを通して、話し手が伝えたいことの中心を聞き取る力が身に付いてきている。今後は、質問や感想などを発表させ、互いに伝え合う力を育めるように指導する。 ・話し合い活動を行う際に、相手の意見や発言をよく聞き、それらを受けて自分の発言につなげていくなど、話し合いのポイントを示すとともに、やりとりを重視した活動が行えるようにする。
書くこと	○本領域の平均正答率は66.7%で、県の正答率を2.5ポイント上回った。 ○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書いている」の平均正答率は79.5%で、県の正答率を8.1ポイント大きく上回った。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の平均正答率は45.5%で、県の正答率を4.3ポイント下回った。 ●文章を書く問題の全ての設問において、無回答が14.3%だった。	・定期的に日記や作文の宿題を出すことを通して、書くことに慣れさせるとともに、「大事なことを落とさずに書く」「始め・中・終わりの3段落構成で書く」など、書くことに関する基礎的な指導に継続して取り組んでいく。
読むこと	○本領域の平均正答率は65.5%で、県の正答率を4ポイント上回った。 ○「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」の全ての設問で県の正答率を上回っていた。 ●説明文の「場面の様子について、叙述を基に捉えている」の正答率は29.5%であり、他の設問に比べて平均正答率が大幅に低かった。	・物語文では、時や場所を表す言葉に気を付けて場面の变化を捉え、登場人物の心情の変化を読み取るなど、読解力を高める指導を引き続き行う。 ・説明文では、段落相互の関係に注意し、筆者の意図を意識しながら読むように指導していく。